



先輩、相談です。

就学先を選ぶ

5歳

男子

アスペルガータイプ ASD

保育園に在籍

14

「お子さんのため」と言われるたびに悩ましく…

就学相談で繰り返し、「お子さんのためを考えて」と言われました。相談員の口からそう言われるたびに、「障害を受け止めきれない」「もっと受け止めて考えてください」と言われているような気がします。わが子のことですから、もちろんいちばんに考えています。が、その思いを否定されるようで悩ましくなります。

■相談員側の意向と違う場合に使われる

「お子さんのため……」という言葉、私もいつも疑問に感じます。障害のない子どものことというか、就学相談を受けない子どもの保護者に対しては、まず就学のこと教育委員会が内心思っている、そういう言葉を口にするのではないということでも過言ではありません。

さまざまな事例を見てきて思うのは、ほとんどは、その言葉は教育委員会が考える方針と「違う」ことを保護者が望む場合に出てくるということです。自分たちの意向どおりの選択を保護者にしてもらうためには、そうした言葉が有効だと考えて

いるかのようです。

「お子さんのためを考えてください」は、ある意味、「就学相談で時間をかけ考えた私たちの思いを受け止めてください」という、相談員からのメッセージだと理解しています。

■障害のある子とない子を分けていたい本心が見え隠れ…

もちろん、就学相談を申請してきた子どもの将来について真剣に考えた結果を伝えてくれているという点は、疑いようがありません。ただし、保護者側の正直な印象をいえば、そこに隔たりを感じてしまうのです。障害の有無で完全に分けて、障害がある子は、ある一定のことが「できるようになってから」通常の学級の子どもたちと一緒にするのが、いじめに遭わない、子どもの自立を促す等々といった論理をベースに検討されている印象であるのは、まだまだ否めません。

就学相談は、保護者の希望を可能な限り尊重するように国は求めていますので、本来であれば、保護者の希望、子育てのニーズを尊重すれば、「お子さんのために」という言葉が出るはずがないのですが。

■悩みを経て、基本の願いに立ち返ろう

そうした言葉が使われたとき、保護者はどう考えればいいのか、深く悩むところ



です。考えれば考えるほど、自分が選択しようとしていることが間違っているのではないかと、子どもの将来のためによくないのではないかと、自立を阻むことになるのではないかと……。さまざまに思い悩むことと思います。

私は、そうした中で大事にすべきことは、基本に返ることだと思っております。どんな基本か、それは、子どもをどのように育てたいと願っているかです。

地域の子どもたちとの間に壁をつくることなく、地域の子どもとして育てたいと思うのであれば、それを大切にするといいと思います。

いやむしろ、個人の特性に合わせた、より専門性の高い教育を受けさせたいと思うのであれば、それもまた伝えればいいのです。

■保護者が信じる選択を

「お子さんのためを考えてみてください」と繰り返し言われ、でも、結果として、保護者が暖めてきた要望で就学先を決めたからこそその成長を感じ、よかったと話す人も大勢います。また、保護者の希望に沿って就学先を決め、そこでの時間があつたからこそ、さらに成長ができたと実感をもちながらも、学年が上がってからは違う選択をし直す人もいます。

子育てのいちばんの責任は保護者にあります。それは法律でも定められていることです。なので、自分が信じる選択をするのが最善だと思えます。選択した先で、

お子さんが気持ちよく過ごすための知恵を、学校のみならず、福祉、医療ともつながって築いていければいいことです。

■就学相談、その本来の役割とは…

社会の宝である子どもは、社会で育てるものです。

「親御さんの子育ての願いのもと、お子さんの個性や特性に応じ、どのような言葉かけをすると理解し安心して学べるのか、苦手なこと、できないことは、どのような支援や配慮があれば学校生活を楽しく送れるのか、困りごとを減らしていくために、お子さんを真ん中にすえて、保護者とともにチームになっていきますよ。そのための就学相談です」

と言うべきなのが、本来の就学相談の役割です。